

## サケの漁獲と種卵確保の状況について

## 1 秋サケの稚魚放流数と漁獲量の推移

- (1) 昭和 50 年代にふ化場の整備が進んだことで、稚魚放流数は、増加し、昭和 59 年には 4 億尾放流体制が整い、これに伴って、漁獲量は増大（最大：平成 8 年度に 7 万 4 千トン）。
- (2) 平成 11 年度以降、放流数は変わらないものの、漁獲量が段階的に減少する傾向。
- (3) 平成 28 年度は、ふ化場の復旧過程で放流数が少なかった稚魚が回帰の主体となる 4、5 歳魚で回帰する年であり、漁獲量は 1 万トンを下回った。
- (4) 震災による放流数の減少や、放流時の水温環境、平成 28 年台風第 10 号によるふ化場の被災などの影響により、平成 29 年度においても種卵の確保が困難な状況が続いている。

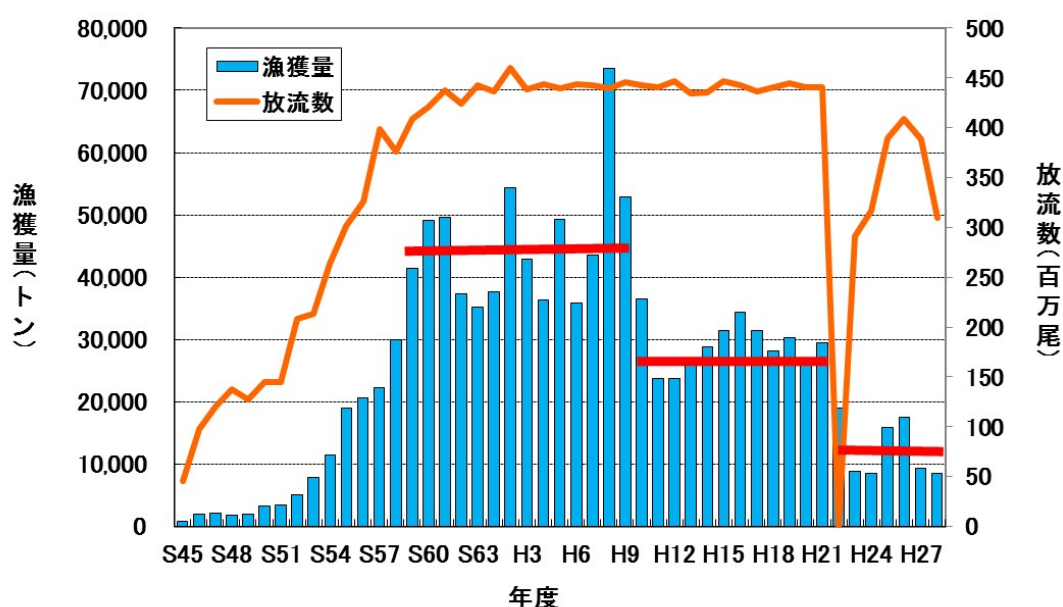


図 1 岩手県におけるサケ稚魚放流数と漁獲量の推移

## 2 平成 29 年度の秋サケ漁獲状況（1 月 31 日現在）

## (1) 漁獲状況

ア 漁獲重量は、7,283 トンと震災前対比 27.3%（前年対比 83.4%）に留まっている。

イ 漁獲金額は、64 億円で震災前対比 72.7%（前年対比 103.2%）となっている。

表 1 漁獲状況

	震災前平均	平成 28 年度	平成 29 年度	震災前対比	前年対比
漁獲重量（トン）	26,696	8,734	7,283	27.3%	83.4%
漁獲金額（億円）	88	62	64	72.7%	103.2%
1 キロ単価（円）	374	788	1,027	274.6%	130.3%

※ 震災前平均は、平成 18～22 年度の 1 月 31 日現在の平均値。

### 3 漁獲量の減少要因

- ア 主群となる4、5歳魚の生産時期は、ふ化場が復旧途上のため、放流尾数が4億尾に達していなかった。
- イ 平成29年度に漁獲される秋サケは、主に平成25、26年の春に放流されたものであり、いずれの年も、サケ稚魚が放流後に北上する時期に、三陸沿岸の表面水温が高めに推移していることに加え、春先から初夏にかけての水温が短時間で急激に上昇する傾向がみられており、その時期に稚魚が十分成長できなかったことが、減耗要因の一つと考えられる。

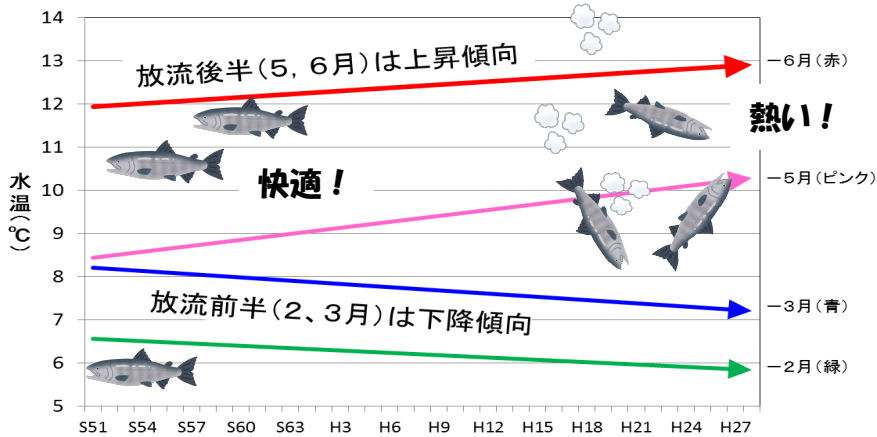


図2 岩手県沿岸における月別平均表面水温の経年変化経過

- ウ 北海道太平洋側における1月20日現在の漁獲重量は、17,092トンで前年対比51%と低調に推移しており、広域で漁獲状況が悪いことから、三陸沖から更に北上する回遊途中においても、減耗した可能性も考えられる。

表2 1月20日現在の北海道サケ漁獲状況

	沿岸漁獲量			漁獲金額		
	本年度 (トン)	前年度 (トン)	前年比 (%)	本年度 (百万円)	前年度 (百万円)	前年比 (%)
北海道	53,895	79,371	68	56,146	50,365	111
うち 太平洋	17,092	33,771	51	17,976	22,695	79

※国立研究開発法人水産研究・教育機構 東北区、日本海区、北海道区水産研究所調べ

### 4 平成29年度の種卵確保状況 (1月31日現在)

#### (1) 種卵確保状況

種卵確保数は416百万粒 (採卵計画対比90%、年度計画で残り48百万粒)

表3 種卵確保状況

(単位:百万粒)

	1月31日まで			年度合計		
	採卵計画	採卵実績	計画対比	採卵計画	採卵実績	計画対比
29年度	463	416	90%	464	—	—
28年度	363	347	96%	364	349	96%

※ 計画対比は、採卵実績を採卵計画で割った値。

※ 28年度の採卵計画は、台風第10号で被災したふ化場の計画数減少分を考慮。

#### (2) 種卵確保に向けた取組状況

- ア 各ふ化場で、河川そ上した未熟な親魚を蓄養し採卵するとともに、過不足の生じたふ化場間で種卵を移出入調整。
- イ 11月2日 (昨年度は11月4日) からは、定置網で漁獲したサケを親魚 (海産親魚) として全県で使用。

表4 海産親魚の使用状況

	実施ふ化場数	使用尾数	採卵数
29年度	15ふ化場(88%)※1	56,045尾(17%)※2	104,737千粒(25%)※3
28年度	11ふ化場(69%)※1	54,045尾(19%)※2	98,377千粒(28%)※3
27年度	15ふ化場(75%)※1	42,791尾(12%)※2	81,158千粒(19%)※3

※1：全20ふ化場(28年度は16ふ化場、29年度は17ふ化場)のうち海産親魚を使用したふ化場の割合。

※2：ふ化場で使用された全親魚のうち海産親魚の割合。

※3：確保された全種卵数のうち海産親魚からの採卵数の割合。

※4：27、28年度は、漁期を通じての実績。

(3) 平成29年度の採卵、稚魚放流見込み

全県的な親魚の不足などの影響で、当初の採卵計画が下回る可能性があるが、稚魚生産において、健康な稚魚を育成し、生残率を高めることにより、4億尾の放流を目指す。

5 今後の秋サケ回帰見込みと対応

- (1) 震災や台風第10号災害に伴う稚魚放流数の減少により、少なくとも平成33年度まで漁獲量の減少は継続すると考えられることから、今後も継続して種卵の確保や健康な稚魚の放流に取り組み、復旧したふ化場を最大限に活用し、4億尾の稚魚放流を目指す。
- (2) 国の支援事業は、平成30年度も継続する予定。
- (3) 秋サケ資源が回復するまでの間、引き続き、採卵用親魚の確保経費などへの支援が必要であり、今後も国に対し、引き続き支援事業の継続を要望していく。
- (4) 本県の河川から放流されたサケ稚魚の生息環境や、北上回遊するための環境条件は年々厳しさを増しており、春期沿岸の高水温化などに耐えられる体力のある稚魚放流など種苗生産方法の改良を行っていく。
- (5) 海洋の環境がサケの生残に影響していることが考えられることから、サケの回遊経路毎の生息状況や海洋条件等の調査を国に要望していく。

表5 今後の秋サケ回帰見込み

	生産年度 年級 放流数	放流年数							
		平成21年度 (2009年級) 4.4億尾	平成22年度 (2010年級) 1.0~1.4億尾	平成23年度 (2011年級) 2.9億尾	平成24年度 (2012年級) 3.1億尾	平成25年度 (2013年級) 3.9億尾	平成26年度 (2014年級) 4.1億尾	平成27年度 (2015年級) 3.9億尾	平成28年度 (2016年級) 3.1億尾
漁獲年度・ 回帰尾数	平成25年度 (2013年度) 529万尾	4年魚 平年並							
	平成26年度 (2014年度) 524万尾	5年魚 平年並	4年魚 <震災>						
	平成27年度 (2015年度) 310万尾		5年魚 <震災>	4年魚 <復旧途上>					
	平成28年度 (2016年度) 297万尾			5年魚 <復旧途上>	4年魚 <復旧途上>				
	平成29年度 (2017年度)				5年魚 <復旧途上>	4年魚 <復旧途上>			
	平成30年度 (2018年度)					5年魚 <復旧途上>	4年魚 <震災2世代目>		
	平成31年度 (2019年度)						5年魚 <震災2世代目>	4年魚 <震災2世代目>	
	平成32年度 (2020年度)							5年魚 <震災2世代目>	4年魚 <台風災害> <震災2世代目>
	平成33年度 (2021年度)								5年魚 <台風災害> <震災2世代目>